

復旧の鍵は市場経済主義からの脱却

今こそ文明論的転換を

東日本大震災から10年余り。川勝平太静岡県知事は、芥川賞作家・玄侑宗久氏を訪ね、遅々として進まない復旧・復興構想について語り合った。果たして根本的な問題とは何か？東北の歴史や文化をひもとくと、市場経済主義からの脱却や首都機能移転の必要性が見えてくる。

対談：令和3年11月 福島県三春町 福聚寺にて

「復旧」で何が悪い？

知事 今日はお世話になります。玄侑氏 遠くまで、ようこそおいでくださいました。

知事 私はこの3年間、全国知事会で東日本大震災復興協力本部長を仰せつかっており、各県の知事に「東北の復興はまだ途上であり、人材を派遣してください」とお願いしています。震災から十年目の節目に国の復興構想会議での先生の提言の記事に接しました。復興構想会議は世間の期待が大きく、梅原猛先生の「文明災」の発言には共感していました。しかし、会議は短期間で閉じられ、先生の提言の行方が気になりました。私の預かっている静岡県は、南海トラフの巨大地震・津波の他噴火もありうる地域で、県民は災害に敏感です。東北の災害を他人事とは見なしていません。

玄侑氏 7月の熱海も大変でしたね。
知事 26人の死者、行方不明者1人を出す大惨事になりました。玄侑氏 原発事故も起こり得ます。

復興構想会議で、私が最初にカチンときたのは、「復旧ではなく復興」という考え方です。我々は震災で破壊される前の状態に誇りを持っていました。しかし復興を唱える人たちは、「東北は遅れているから、この震災に乗じてプラスチックで復興しましょう」と言うわけです。それは失礼ですよ。だから「復旧で何が悪いんだ」と。我々は意的に「こういう農業や漁業をやってきた。集約型の、あるいは欧米型のそれを、できなかったわけではないのです。」

東北は、江戸時代まで「出羽」と「陸奥」でした。それが東北と呼ばれるようになった。では、どこから見た東北なのか。東京から見れば北。京都から、というのは無理があると思います。私は、鬼の出入り口の丑寅の方角と見ます。田村麻呂の時代から、この地域の住民は鬼呼ばわりです。だから鬼の付く地名が東北には多数あります。鬼呼ばわりされるのはまあ甘んじるとしても、鬼と呼ばれるだけの別の価値観があるのではないのでしょうか。
知事 東北新幹線に乗って、関東平野から東北に近づくとトンネルが続きます。東北の山に入るのです。東北の山々は、日本アルプスほ

知事 静岡県には浜岡に原発があります。福島第一原発の事故は他人事ではありません。この間、ずっと気になっており、お役に立つことがあればと考えてきました。

玄侑氏 ありがとうございます。
知事 先生は復興構想会議で、例えば「文明的転換」を実現するため

に「医療・福祉・研究・リゾート特区構想」を提言されました。また、復興は上からではなく被災者の意向を生かすべきであるといった傾聴すべき提言もされています。

玄侑氏 あの当時で思い出すのは、「原発から20キロ圏内の牛は殺処分しなさい」という国の指示です。私

はなぜ殺すのかと問いましたが、答えは「内部被曝の恐れが非常に高いから」と言うわけです。ならば「福島県民はどつなのか」と。「福島県民は内部被曝しているかもしれないけど、人間だから殺さないのか」と。そういうことをされると、福島県民への差別は助長されます。そもそも復

旧は遅々として進まない復旧・復興構想について語り合った。



ど高くなく、山々は緑に覆われています。つまり、関東の平野が尽きたところで東北の森の世界へ入るので

す。その入り口が栃木・福島の県境です。日本は古来、山裾に集落をつくり、手前に鳥居と社を建て、その奥を鎮守の森として大切にしてきました。森には「奥」のイメージがあります。日本人は奥を大切にします。陸奥には世界遺産の平泉もあり、いわば聖なる森の奥座敷です。聖なる森の奥座敷を出たところから関東

平野が広がります。福島県の郡山辺りはその表玄関に当たります。

消えた首都機能の移転

玄侑氏 私は復興構想会議で、全国に散らばっている被災者のために「チエルノブイリのスラブチッチに当たるような町を新たに作り、行政ごとそこに住んでもらってもいいのでは」という提言をしました。スラブチッチは、チエルノブイリの北東50キロの所に、50万人を上限とする都市

をつくらうとしていたようです。でも、町をつくるのは相当時間がかかります。

今回の福島についても、すでに10年が過ぎ、小学3年生までの子は、もう避難先がふるさとです。スラブチッチの場合も、50万人都市を目指しましたが、今は約2万5000人。でも、落ち着いた文教都市になっています。

知事 30年ほど前の1990年に衆参両院が一致して首都機能移転を

作家・福聚寺住職 玄侑 宗久氏

1956年福島県三春町生まれ。慶応義塾大学中国文学科卒。2001年に「中陰の花」で芥川賞受賞。2008年から同町の臨濟宗福聚寺住職。2011年に東日本大震災の復興構想会議委員に就任。「たまきはる福島基金」理事長。



決議しました。法律が定められ、国会等移転審議会が設けられ、審議会の答申が出ました。地震、水、交通の便、土地の取得の容易さ等を勘案し、筆頭候補地を那須野原・阿武隈としていきます。誰もが首都はそこに移ると思いました。1999年12月に答申が出て、あとは実行するだけでした。それを決める衆議院特別委員会では1年、2年、3年と議論を重ね、「決められません」となって、そのままの状態で今日に至っています。答申はまだ生きています。

玄侑氏 1990年代に決められたことを、今も考えてくださっているのは稀有なことです。我々にすれば、あの話はすっかり立ち消えたと思っただけです。政治の継続性というものが、どうも信じられませんね。復興構想会議も同じです。

知事 希望は捨てません。国会議員は自ら決めたことを実行するべきです。私は同志を増やし、復興協力本部長を預かっている責任において東北を元気にしたい。東北の入り口にできる新しい首都は、大東京と異なり、緑の中にじんまりあいた人口数

十万規模の森の都のイメージです。そこに先の大震災で故郷に戻れなくなった福島の人々を中心に最初の住人になつていただきたい。

玄侑氏 川勝知事が主導してくださる限り、首都機能が移転されても「那須銀座」みたいなことにはならない。

知事 銀座的な繁華街ではなく、緑したたる森の中のガーデンシティです。今回のコロナ禍で東京の感染者と死者は日本最大です。「極集中」は解消しなければなりません。国土の分散化が必要です。日本の中心が

東北方面に移れば、分散化の象徴になります。岸田首相は「デジタル田園都市国家構想」を打ち出しました。交通網とデジタルのインフラがあれば、自然の豊かな地方でも利便性には事欠きません。那須野原・阿武隈の新首都の人口はせいぜい数十万、郡山の人口はどの位ですか。

玄侑氏 33万人くらいです。**知事** 新首都の人口は最大でも60万人という数字を挙げています。近くには那須の御用邸もあり、土地柄は風水的にも良く、北海道は奥の院、東北は奥の院、那須野原・阿武

限の新首都はその玄関口です。**玄侑氏** 今日は那須野原にも寄つて来られたようですが、そのことは以前からお考えだったんですか。**知事** はい。先生の小説の「光の山」は災害で亡くなった全ての魂を鎮める古墳のような小高い山のことですね。平泉に象徴される東北は「鎮魂の森」です。首都移転の話は、首相官邸での全国知事会でも申し上げるつもりです。

玄侑氏 東北が鎮魂の森で、ここがその入り口で、近くに首都機能のある新しい町をつくるというのは、精神的にも大きな張り合いになりますね。今こそ価値観の転換を

玄侑氏 知事は、ご著書の中で「土地は私有せず、借りるシステムが良い」と、おっしゃっていますね。**知事** 公地公民が理想です。土地は天からの授かり物で、歴史をたどれば、排他的に所有するという思想は主流ではありません。なるほど武士は当初「所懸命」で自ら開発した土地を死守しました。しかし行き着いたのは信長・秀吉・家康による兵

農分離です。武士は土地から切り離され、城下に集住しました。原点は土地の獲得でしたが、最後に反転したのです。武士の職責は経世済民すなわち統治になりました。上に立つものは有徳の士であることが求められました。それゆえ武士は例外なく学問をしました。古代にあった公地公民的な考えは新都の理想です。簡単なことではありませんが。

玄侑氏 日本国憲法には、土地に関する条項が二行もありませんね。私の邪推ですが、現憲法が制定された頃は、台湾を手放し、満州も手放し、国土が最小になっていた時期ですね。だから「また増えるかもしれない」という思いがあつて、土地に関する条項を入れなかつたんじゃないかと。その反面、土地に関する滅茶苦茶な法律はいろいろあつて、日本に住んでいない外国人が日本の土地を買えるわけです。また大深度地下使用法も実に奇妙です。

知事 大深度地下使用法では、40メートルより下の所有権はありません。玄侑氏 だから土地を買つても「地下何メートルまで自分のものですか」

あるいは「空中は何メートル上まで自分のものですか」という話になります。挙げ句には空中権を売買するという破茶滅茶なことも行われている。憲法に拘れば、信教の自由もかなりおかしい。個人が新興宗教に入信すること、先祖からどこかの檀家であるという状況は、かなり違います。今回の震災でも、お寺や神社が避難所になったケースは相当あります。寺社の存在は、信仰の対象というより、その地域に住んでいる、先祖が眠っているというか、何か違ったものだと思いますが、震災後は一律に

「政教分離」を盾にして「宗教法人には支援できない」と言われ、結局義援金を受け取れず、今も先行きの見えない寺社がかなりあります。ですから私は「コミュニティーの中核的な場所として神社仏閣を見てほしい」と申し上げました。西洋的な個人信仰の論理で「自由な信仰の場」と見なされるのは、非常に困ります。**知事** 大地を大事にしない国民はありません。土地と信仰は結びついていきます。現行憲法には国土の条文がなく、画竜点睛を欠いています。

とですが、福島県は農業人口が全国2位でした。しかし農業生産高は全国14位。つまり効率が悪いです。福島の人材は効率よくお金持ちになることを目指さない生き方を、半ば自覚的にしていたのです。だから、もうそろそろ文明の価値観の転換、あるいは集約的システムからの脱却を図るべきです。その意味で、知事の「富国」有徳論は、励みになります。価値観が逆転すれば、ピリがトップになるわけですから。**知事** ありがとうございます。

玄侑氏 知事のお話を伺っていると、聖徳太子を思います。学問と政治を両立されるというか、王法と民法の双方に通じておられて、ありがたいことだと思えました。そういう本気度の高い川勝知事が、東日本大震災復興協力本部の長にいらっしゃるのは非常に心強い。その意味で、いい時に、いい方にお会いできました。

知事 今日はお話ができ、本当によかったです。心から感謝しています。ありがとうございます。**玄侑氏** こちらこそ、ありがとうございます。ございました。



静岡県知事

川勝 平太

1948年生まれ。京都市出身。早稲田大学、同大学院を経て英オックスフォード大学で博士号取得。早大教授、国際日本文化研究センター教授、静岡文化芸術大学学長などを経て2009年より現職。現在4期目。